

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
学会連携を通じた希少癌の適切な医療の質向上と  
次世代を担う希少がん領域の人材育成に資する研究  
（分担研究報告書）

成人・小児進行固形がんにおける臓器横断的ゲノム診療のガイドライン策定に関する研究

研究分担者 吉野 孝之 国立研究開発法人国立がん研究センター東病院 副院長（研究担当）兼消化管内科  
長

研究要旨

急速に進化する臓器横断的ゲノム診療に対応するため、成人・小児進行固形がんにおける臓器横断的ゲノム診療の国内ガイドライン（第3版）の策定が行われた。日本臨床腫瘍学会、日本癌治療学会、日本小児血液・がん学会の共同編集で展開したため、事前にガイドライン作成のためのルール作りが行われた。その結果、計画通りに、公平な共同編集が実現し、作成学会の記載順・作成グループの委員長・委員の選任に関するルール作りが行われ、実行された。特記すべきことは、委員長、委員の選抜に、各学会の利益相反審査基準でなく、日本医学会の利益相反規程を用いた利益相反審査が行われた。結果的には、上記の理想的な手順を踏んで、複数学会を横断したガイドライン策定が実現した。本ガイドラインの作成手順が、今後の複数学会を横断したガイドラインの策定の見本となる可能性がある。

A. 研究目的

急速に進化する臓器横断的ゲノム診療に対応するため、成人・小児進行固形がんにおける臓器横断的ゲノム診療の国内ガイドライン策定すること。

B. 研究方法

・日本臨床腫瘍学会、日本癌治療学会、日本小児血液・がん学会が協働し、『成人・小児進行固形がんにおける臓器横断的ゲノム診療のガイドライン』第3版（以下、本ガイドライン）を策定する。

（倫理面への配慮）

ガイドライン策定に関する研究のため該当なし

C. 結果

・本ガイドライン第2版（前版）は日本癌治療学会・日本臨床腫瘍学会の共同編集、日本小児血液・がん学会協力の立て付けであったが、第3版は日本臨床腫瘍学会・日本癌治療学会・日本小児血液・がん学会の共同編集で展開することの合意がなされた。  
・本ガイドラインは複数学会を横断したガイドラインのため、作成学会の記載順・委員長・委員の選任に関するルール作りが事前になされた。具体的には、日本臨床腫瘍学会、日本癌治療学会、日本小児血液・がん学会の記載順で、各学会から一名ずつの委員長を選出し、日本臨床腫瘍学会の委員長が統括委

員長となり、他学会の委員長が全体の副委員長に就任し、本ガイドライン事務局を日本臨床腫瘍学会事務局に設置した。作成委員を日本臨床腫瘍学会、日本癌治療学会、日本小児血液・がん学会から8名、8名、3名選出し、外部評価委員を各学会から3名ずつ、計9名の選出を行った。

・本ガイドライン第2版の委員の利益相反審査は、各学会の規程に沿って行われたが、本ガイドライン第3版は日本医学会の利益相反規程を用いて各学会の利益相反委員会が審査した。

・2021年7月6日、12日に第1回作成ワーキング会議（キックオフミーティング）、2021年8月22日に第2回作成WG 会議（Voting）が行われた。

・2021/11/5から11/14の期間で、外部評価委員による評価用パブコメ募集が行われた。

・2022年1月13日に最終校正が完了し、日本臨床腫瘍学会学術集会開始日に併せて、2022年2月17日に発刊した。

#### D. 考察

3学会でのガイドライン作成のためのルール作りと各学会からの承認に多くの時間を費やした。下記に達成事項を記載する。

・日本臨床腫瘍学会、日本癌治療学会、日本小児血液・がん学会の公平な共同編集が実現した。

・複数学会を横断したガイドラインのため、作成学会の記載順・作成グループの委員長・委員の選任に

関するルール作りが行われ、実行された。

・日本医学会の利益相反規程を用いた利益相反審査が行われた。

#### E. 結論

結果的には、理想的な手順を踏んで、複数学会を横断したガイドライン策定が実現した。本ガイドラインの作成手順が、今後の複数学会を横断したガイドラインの策定の見本となる可能性がある。

#### F. 健康危険情報

特になし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

現在英語版を作成中（学術論文掲載予定）

##### 2. 学会発表

1. 成人・小児進行固形がんにおける臓器横断的ゲノム診療のガイドライン（第3版）の概要. ガイドライン委員会企画セッション、第19回日本臨床腫瘍学会学術集会（2022年2月17日-19日）

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

該当なし